



発行2009年10月31日

〒679-3341 兵庫県朝来市生野町黒川292

Tel/Fax: 079-679-2939

E-mail: info@hanzaki.net

URL: http://www.hanzaki.net

NPO 法人 日本ハンザキ研究所 栃本 武良

.....
ハンザキ研をめぐるスター⑫

イモリ

イモリは食わない方がよさそう。いくら黒焼きがほれ薬になるからと言っても相手を殺してしまっただけではいけない。これは、ちょっとオーバーな表現だがフグ毒をもっていることが知られているからである。しかし、京都大学の実験ではあの可愛い？ラスカル(アライグマ)は、イモリをこすりまわして毒を出すだけ出させて食べたということである。こんな器用で賢い動物がはびこっているのは日本の生態系はひとたまりもないと思う。

6月頃のモリアオガエルの池には、どこから集まってくるのか数百匹のイモリがオタマを腹いっぱい食べようとひしめいている。イモリの最大記録は知らないが当研究所の標本で全長は135mmだがすごく太っている大きな標本が在り、見学者を驚かせている。あまりの大食いなので一昨年は160匹を取り上げて川へ戻したが、今年も集まってきていた。



透明なフィルムに保護された卵内の胚(左)と外鰓のある幼生

そんな憎たらしい面もあるが、飼育しやすい生き物で産卵繁殖も容易である。ましてや、メスにプロポーズするオスは青紫色の尾を曲げて打ち震わせている必死な様子はほほえましい。合意するとメスはオスの後について歩き、落とした精子の塊をクロアカから取り込むという体内受精をする。メスは水草を後足で丸めて間に卵を産みつける。水草の代わりに透明なフィルムを入れておくと卵発生が観察しやすい。孵化した幼生は首の付け根にピンと立った外鰓があり、10月から11月にかけて変態し小さな小さなイモリの子供が上陸する。お腹は薄橙色で水槽のガラスを垂直に登っていく。私たちが普通に見るイモリは全長10~13mmくらいだ。それまでのチビイモリは陸上生活をしているようだが、なかなかその姿を目にすることが出来ない。



写真1 横山講師(右端)の話聞くキノコ観察会



写真2 サルナシの断面はキューイそのもの



写真3 オオギセルと穿孔(赤丸内)



写真4 崖下へ投げ捨てられていたシカ



写真5 ハンザキ印の大山茶



写真6 日南町多里の皆さんのおもてなし

オオサンショウウオの会 in 鳥取県日南大会

第6回のオオサンショウウオの会が鳥取県西部の町で開催されました。この地でオオサンショウウオの調査研究を続けている鳥取大学の岡田純博士のフィールドを楽しみに参加しました。岡田さんはオオサンショウウオの研究で今春、二人目の博士になっています。岡田さんはマイクロチップの使用などについて地元の文化財保護審議委員会からの許可が出なくて大変に苦勞されたそうです。マイクロチップに関しては多くの前例があり何の問題もなく、研究者よりも長生きする動物の個体追跡には欠かせない存在なのです。使用を否定されては私も困りますので、大会の記念講演ではこの点を強調しておきました。

会場に近づくに連れて“オッ！はんざけ”の幟旗が目立ちます。山陰地方では“ハンザケ”と語尾変化します。会場ではスタッフの赤いジャンパーの背中にも同じ“はんざけ”の文字が踊っており、地域の皆さんが総出で歓迎してくれたのです。それは懇親会における料理メニューにも現れていて、皆で工夫した地産の食材で試作しては試食会もしたそうで“ハンザケ・バーガー”を始めとして写真6にありますような“ハンザケ五目飯”など素晴らしいものでした。中でも“コキの燻製”には飛びつきました。コキはイワナの仲間でも中国地域では吻部まで白い斑紋があるゴギのことなのです。あっという間に皿から姿が消えてしまいましたが、大変に旨い燻製でした。写真5は同じ鳥取県の大山町で茶作りに励んでいる元気なお母さん平澤さんの新作“紅茶っ粉”で茶作りの際に出る粉末をコーヒーのように飲む紅茶に工夫したものです。いいアイデアですね。

日中の発表会は14題あり例年どおりの時間不足となりましたが、各地からの報告は私たちのようにハンザキを追いかけている人間にとっては大変に参考となるものでした。また、懇親会後の夜間観察会では、橋の上から小学生たちが「おかださーん！」と声援を送っているのが大変に印象深く、地域に溶け込んでいる岡田さんの存在がクローズアップされていると思いました。どこでもそうですが、山間の夜の川で怪しげな人間がゴソゴソしていると不審に思われるのが当然で、地域の方々に理解され応援されるようにならなくては研究も長続きしません。そういった意味でも、岡田さんの活動は地道で苦勞もあつたでしようが良い関係を築き地域に溶け込んでいる様子が伺えました。

オオサンショウウオだけに絞った会なのですが、毎回100~150人もの人々が集まり充実した、満足感を覚えることが出来る会合になっています。オオサンショウウオだけに研究目標を定めている人は少ないのですが、河川生態系の頂点にあるハンザキは多くの生き物との関連が強く、本種を生かすためにはあらゆる生き物が繁栄することが必須条件になります。そんなことで多くの皆さんに注目されるのかもしれませんが、日本が世界に自慢できるハンザキの生態を解明し絶滅させないためにも、オオサンショウウオの会が頑張らなくてはなりません。来年はハンザキ研究の発祥の地・岡山県湯原で、次の年は分布東限かと言われていた愛知県瀬戸で、その次は山口県でと開催地の立候補が続いています。それだけ各地におけるハンザキへの思いが強いからでしょう。頼もしいことです。

キノコの観察会

10月17日に、直谷(なおだに)ルートで実施された。正にマツタケ・シーズン真っ盛りである。ルートには赤松の大木もあり期待が高まる観察会であったが、残念なことに周辺の縄張りされているマツタケ山も今年は大不作であったそうである。我先にルートからそれた藪の中に踏み込んでいく人も空振りに終わったようだった。

キノコの講師には兵庫県生物学会の横山了爾副会長や弟子入りして修行中とおっしゃっていた宇那木先生のお二人である。7月と8月の二回も下見に来ていただいたの本番であった。参加者は応募の21名とスタッフ5名の総勢28名であった。直谷トレッキング・ルートは旧・姫路工業大学のワンダーフォーゲル部OB会のメンバーが倒木を除き道標を立ててルートを維持している所である。途中には標識ロープ(俗称トラ・ロープ)に捉まっての急坂もありというなかなかのトレッキング・コースでもあった。

2時間ほどの探索で引き返したが、山道にはドングリやヤマグリがおびただしく落ちていて、野生の動物も今年は餌不足にならないで済みそうであった。杉の切り株が真っ白に見えるくらいスギヒラタケが群生していたり、横山先生の30年間で2例目のオオムラサキアンズタケの観察もありであった。サンプリングしたキノコ類は午後からハンザキ研で同定と食べる? 食べない、などといったお話と共に見分け方のレクチャー(写真1参照)を受けたが、なかなか難しい。やはり素人判断はしないほうが良いと改めて考えさせられた。

名前が分かったのは42種類、全てホルマリン漬けの標本にしてみた。邪道との事であるが、水族館生活の長かった私には手っ取り早い方法でもあります。来年の観察会ではどんな状態になっているのでしょうか? ゲゲゲの鬼太郎の目玉親父のモデルだと思っている“ツチグリ”の仲間のホルマリン漬け標本は数年間良い状態で残っており、子供たちだけでなく大人にも大きな驚きを与えている私の気に入りのキノコです。

この観察会の途中で崖下にシカの死体が見つかりました。よく見ると頭部は毛皮が残っていますが、胴体にはありません。(写真4参照) どうやらおいしい背中の肉だけを切り取り、重たいだけのすじ肉の部分は谷に投げ捨ててあったようです。猟友会のメンバーも高齢者が多くなって駆除しても処分しきれないためのようです。もったいないような残念なような気分ですが、やはり流通のベルトコンベアーが出来ないと仕方がないのかもしれない。

増えすぎたシカは餌がなくなりススキや帰化植物のベニバナボロギク? などまで食べ始めています。冬に積雪の中から頭を出しているササは刈られた芝生のように同じ高さに食われています。成長点を食われて枯れているササも沢山見られます。ハンザキ研のそばの絶壁からは石の雨が降りますが、シカが餌を求めて急勾配の斜面を横切って歩いているからです。私の姿を見咎めて鋭い警戒音を発します。口笛で応答すると更に高く鳴いて仲間に危険を知らせます。シカも暮らしにくい世の中になったものだと嘆いていることでしょう。このように増えすぎた動物たちの悲哀はヒトへの警鐘です。溪流のセキショウまでも食われ尽くし、ネコヤナギも芽が出ると食われてしまい枯れていきます。淋しい河岸になってしまっていますが、どうしたらいいのでしょうか?

貝の孔

アサリなどの殻に丸い小さな孔が開いているのを見た人は多いことでしょう。あの硬くて脆い貝殻に奇麗な穿孔はどんな技術者の作品なのだろうか？と考えたことはありませんか？海の中ではツメタガイ（ツベタなどとよばれることがあります）の仲間が外敵として知られています。潮干狩りのときに“スナジャワン”と呼ばれる砂を固めた茶碗のようなツメタガイの卵塊を見つけたことがありますか？ ツメタガイの仲間は強い酸を出しながら歯舌と呼ばれる口器でアサリなどの心臓部付近に孔を開けて殺して食べてしまいます。

皆さんは、陸上の貝をご存知でしょうか？デンデンムシことカタツムリが代表ですね。ナメクジも貝の仲間、海にもウミナメクジといった貝殻を持たない生き物のグループがいます。キセルガイという名を聞いたことがありますか？陸生の貝なのですが、この巻貝の殻にアサリに見られるような丸い孔が開いていたのです。（写真 3 参照）おかしいなと思い、姫路市立水族館の貝キチ増田修さんに聞きました。この標本は大水で流されて漂着した殻だったのですが、手にとって見ると奇麗な丸い孔が開いていたのです。

孔を開けた主はナメクジの仲間なのだそうです。野菜をかじって光る粘液の足跡を残す嫌われ者なのですが、貝殻に孔を開ける術を持っていたとは意外なことでした。そこらへんに転がっていた何の変哲もないサンプルでしたが、良い勉強になりました。食う食われるの関係は、海と陸と環境が異なっても同じような生き物の関係があるのですね。

.....

ハンザキ所長のツブヤ記録

オオサンショウウオの会も昨年の朝来大会からあつという間に1年がたち、第6回が鳥取県日南町で開催されました。手作りで地域の皆さんが総出で会を盛り上げてくれた、今後の手本になるような会合でした。ハンザキが生息するような地域は、ご他聞に漏れず過疎化が迫っています。これは逆に考えると自然環境の豊かなことを物語っています。地元の方々は、ハンザキなんて珍しくもないとあまり関心が無いのも共通点です。二日目にはそんな人たちへの関心を引き起こそうという企画の中で、ハンザキグッズの自慢話をしてきました。鳥取県からは今回多くのグッズを頂き、コレクションは200点を超えました。会員のジョンソンさんからは焼酎にハンザキのラベルが付けられたものを頂き、二人で空にしました。皆様にも収集にご協力ください。

今年はクッキリと鮮やかな紅葉になり、紅葉狩りとばかりハンザキ研の奥にある黒川ダムを周遊しました。途中で写真2のサルナシが実っているのを見つけて食べてみました。写真の断面を見るとキューイじゃないかと言われることと思いますが、直径1㍍長さ2㍍ほどの小さな実です。味もキューイそのものですが、実は原種になる植物なのだそうです。この小さな野生の木の実を品種改良して現在の鶏卵大の果物が、オーストラリアの鳥キューイにちなんで名付けられたそうです。それにしてもこの甘みのある果実が食われることも無く、仰ぎ見る空をバックに鈴なりになっているのは素晴らしい光景でした。

ハンザキ研日誌

2009年10月

- 1日 共和コンクリート株式会社木元氏(会員)「すずかけ」看板取付け
- 2日 大阪府安威川ダム建設事務所3名来所
- 3日 第6回オオサンショウウオの会 in 鳥取県日南大会～4日
- 6日 ・加古川市の中谷さん(会員)から180×60×60^{mm}の大型水槽受贈
・第288回調査終了(8月25日～)
- 7日 台風18号(平成2年の養父市建屋川、平成16年の豊岡市円山川水系の災害と同じコースの大型で強い台風)で、アンコ淵の巣が埋まる
- 9日 ・但馬文教府・高齢者大学みてやま学園にてハンザキの話
・第289回調査開始(～13日)
- 10日 京大(院)田口さん夜間調査(9月の7夜調査の補填)9個体確認
- 13日 オオサンショウウオの健康診断(京大4年の前田知己さん、地元の奥藤司さん他)
- 14日 姫路市立白鷺小・中学一貫校にて環境学習授業
- 16日 ・第290回調査開始(～23日)
・“内山主”アンコ淵の巣穴の前でウロウロしている(生き埋めにはなっていないかった!)
- 17日 キノコ観察会、横山・宇那木両講師とスタッフ5名、参加者21名で42種確認
- 18日 ・田口さん、夜間調査(7夜調査の補填2)9個体確認
- 19日 兵庫県生物学会・東播支部研修会23人見学に
- 20日 当法人の黒田哲郎会計と竹村真澄理事婚姻
- 21日 アンコ淵の土砂整備、アンコ淵の復活、奥藤事務局長2日がかりのユンボ作業
- 22日 ・アンコ淵の巣穴から卵塊を潜らずにフッキング成功、ただし、卵は半月間の埋没で死んでいた
・姫路市立水族館(森谷係長初参加、増田修氏と)6個体チェックと人工巣穴のクリーニング(GS-291)
- 24日 ひょうごサイエンス・クロスオーバーネットワークに参加、神戸大学にて
- 25日 第292回調査開始(11月6日まで)
- 26日 ランデス株式会社(会員)野村氏他来所、新型環境ブロックの開発について
- 28日 9月15日保護の流出卵の孵化が始まる
- 29日 ・大阪府安威川ダム建設事務所4名来所、新委員会発足について
・モンドリ調査実施(カワムツがほとんどであった)
・カニ籠調査でハンザキ2個体確認
- 30日 ・NPO法人コムサロン21から3名視察に
・大阪府池田土木事務所4名と株式会社ウエスコ山下氏来所、北川の調査報告に
- 31日 ・NPO法人事務局会議7名出席(当ニュースNo.45と秋の紅葉狩りトレッキングの案内送付)
・ひょうごエコフェスティバル出展のパネル作成